

# 大妻同窓会福島だより



## 元気な福島を取り戻すために！

大妻同窓会福島代表 武藤みや子

「大妻同窓会福島」の皆様、ごきげんよう。

昨年の役員改選で代表になりまして1年が過ぎようとしています。この1年、何もわからないまま活動をしてきましたので、会員の皆様方には何かと迷惑とご不便をおかけしましたこととお許し願います。

また、前代表の岸本有代様には設立時から長期にわたりましてご尽力をいただきましたこと、心より御礼申し上げます。

ところで、3月11日であの原発事故と震災から4年になりました。私たちはあの時以来、混乱、悲しみ、不安、憤りなど、誰もが経験したことの無い状況の中で、何とか自分らしい生活を取り戻そうと頑張っておりまして。そして、全国の多くの皆様方からご支援をいただき今日に至りました。

避難されていた方も徐々に古里の町や村に帰還され、復興に向けて頑張っているところです。し

かし、本当の意味での復興まではまだまだ時間がかかります。放射線量の問題、風評被害、食の安全、12万人に上る県内外に避難されている方のことなど、未解決のことがたくさんあるのです。そのような中で、情報を発信し多くの皆様に現状を知っていただくことも大妻同窓会福島の役目だと思っています。

母校大妻女子大学では、「地域連携プロジェクト」を推進されていて、特に、『被災地「きずな」プロジェクト』と題して、被災地の小学校に機能性Tシャツを寄贈する活動を推進。今回、私たちがその活動に協力させて頂けたことは大きな前進でした。

「大妻同窓会福島」は、今回のような活動をステップにして、元の元気な福島を取り戻すために行動したいと思います。会員の皆様方のご協力をお願い致します。



## ごあいさつ

一般財団法人大妻コタカ記念会

会 長 井上 小百合

大妻同窓会福島の会員の皆様いかがお過ごしでいらっしゃいますか。

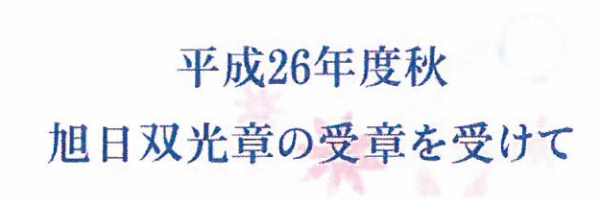
昨年（令和3年）の総会の折には皆様とお会いでき、会津の落ち着いた街並みにもふれることができ、楽しい時間をいただきました。

前代表の岸本様には、会の設立からご尽力いただき感謝に堪えません。これからは新代表の武藤様を中心に、同じ土壌で学校生活を送った者同士の繋がりを大事にして、同窓会活動が長く続いていくようお願いしています。

さて、母校大妻は一昨年法人合併をして、現在一つの大学と四つの中学高等学校を擁し、学生生徒数は1万2千人を超える全国でも屈指の大きな学園になりました。

この春には開設から48年間にわたり、大妻女子大学家政学部・文学部の1、2年生（近年は1年生だけ）が通った狭山台校の幕が閉じられ、受け入れる千代田校の校舎改築が急ピッチで進んでいます。また学部再編の動きもあり、大妻女子大学は大きな変革の真只中にいます。

大妻コタカ先生は「前進することが伝統を生かすことである」という言葉を残されていますが、長い歴史と伝統を持った大妻学院が大きく飛躍し、学生の心に大妻コタカ先生の教えが浸透していくように、大妻コタカ記念会も役割を果たしていきたいと思います。



## 平成26年度秋 旭日双光章の受章を受けて

昭和20年専門学校技芸科卒

斎 藤 幸 子

昨年11月10日、国立劇場にて福井文部科学副大臣より旭日双光章受章者代表として伝達を受け、引き続き皇居へ参内し春秋の間において天皇陛下に拝謁の栄を賜り感激の極みでございました。

振り返ってみますと親に進学を希望したところ「女は将来結婚するのだから家庭で役に立つ学校へ」と、昭和18年4月「良妻賢母」教育の趣旨にのっとった大妻女子専門学校技芸科へ入学いたしました。1年目は優雅な学校生活を過ごしましたが、2年目の半ばからは戦時状況も厳しく学徒動員となりました。最初は本校3階の学校工場で「陸軍階交社の陸軍士官上下服縫製作業（仕立職人指導）3月9、10日東京大空襲以降は鎌田の軍需工場から4月、長野県立伊那高等女学校内の「海軍衣糧廠学校工場」で縫製の指導員として勤務、終戦をむかえました。9月繰上げ卒業、従って学業は1年半程度でしたが、3月、文部省より女学校の家庭科教師の免許状が送付されました。

就労経験もなく専業主婦として消費生活や女性の地位向上の団体活動にかかわって50年余となりました。この度の受章は私個人でなく社会教育団体としての活動に賜った栄と存じ、今後は多くの仲間感謝しつつ、この榮譽に恥じることの無く身の丈にあった人生を過ごす所存でございます。



## 平成26年度 総会を終えて

佐藤 瑞穂

支部長交代後、初めての総会が会津若松市の老舗料亭「萬花楼」で開催されました。

県内外から11名の同窓生が集まり、本部から井上小百合会長さんのご参加もいただきました。当日は予報通りのあいにくの曇り空、肌寒い一日でしたが、会場は東山温泉の芸妓さん2名の艶やかな舞に歌に、とても華やいだ気分になりました。料亭の美味しいお料理に舌づつみをうち皆満足気でした。1人1人の近況報告があり、震災後4年になろうとしておりますが、少しずつ前向きに、生活も落ち着いてきたようにも感じます。

会の終わりには、少しお酒の勢いもあり、芸妓さん2人と地元の支部長武藤さんはじめ、この会の開催に力をそそいで下さった皆さんの音頭で、会津磐梯山の盆踊りを皆で習いテーブルの周りを踊ったり、大変盛り上がり賑やかに終了することができました。それにつけても、もう少し参加人数が増えると、もっとこの会も意義のあるものに



なるのではないかと思います。会終了後、雨の中お城まで案内いただき、充分楽しい一日を堪能でき本当によかったと思います。

今回は、それぞれ声をかけてお誘いし、大勢で楽しい会に致しましょう。お互い健康に気をつけ、大妻精神の「恥を知れ」を常に念頭に生活することと致しましょう。またの再会を楽しみに……。会津の皆様ありがとうございました。



## 平成26年度 大妻女子大学「地域連携プロジェクト」の協力について

昨年の秋、記念会から、大妻女子大学の水谷千代美准教授が「地域連携プロジェクトを推進している。『被災地「きずな」プロジェクト』と題して、機能性Tシャツを被災地福島県の小学校に寄贈したいので、福島同窓会として小学校を探してほしい」という旨のお話が寄せられたので、協力してほしいとの連絡を受けました。

最初に、会津若松市教育委員会の担当者に相談したところ、原発事故で会津若松市に町役場ごと避難している「大熊町」の教育委員会をご紹介頂きました。早速、大熊町教育委員会にプロジェクトの内容をお話し、後日、改めて町の二つの小学校を訪問。大野小学校、熊町小学校の両校長先生、町教育委員会の指導主事にお会いし、このプロジェクトをお引き受け頂くことが決まりました。

その後、平成27年1月30日に水谷先生をご案内して再び両小学校を訪問。水谷先生から詳細を説明して頂き、3月の卒業式前までに寄贈できる運びとなりました。

今回、記念会からお話がかった時は全くの手探り状態でしたが、会津若松教育委員会ははじめ、各機関のご協力を頂き実施の運びとなりましたこと、大変うれしく思います。

(文責 武藤)

※ 3月18日に贈呈式が行われました。詳細は次の会報でお知らせ致します。

## 大妻同窓会福島役員（平成26年度）

|       |     |     |
|-------|-----|-----|
| 代 表   | 武 藤 | みや子 |
| 副 代 表 | 渡 部 | 幸 子 |
| 副 代 表 | 大 竹 | 美登利 |
| 会 計   | 越 尾 | 茂 子 |
| 会 計   | 三 浦 | 節 子 |
| 監 査   | 阿 部 | 晶 子 |
| 監 査   | 小 松 | 宏 子 |
| 相 談 役 | 佐 藤 | 瑞 穂 |
| 相 談 役 | 岸 本 | 有 代 |

## 大妻同窓会平成26年度のあゆみ

平成26年

- 7月2日 役員改選により事務引き継ぎ
- 8月1日 役員会
- 9月20日 総会案内状準備と発送
- 10月17日 役員会
- 11月9日 平成26年度総会・懇親会

平成27年

- 1月17日 会報編集会
- 2月28日 会報編集会
- 3月31日 会報「大妻同窓会福島だより」発行

## 平成27年度の計画

期 未 定 平成27年度総会・懇親会

平成28年

- 3月31日 会報発行

## 編集後記

この度は副代表を仰せつかり、非力ながら、総会、支部だよりの発行にこぎつけました。

玉稿をお寄せいただきました皆様に感謝申し上げます。

27年度の総会にも多くの会員の皆様のご出席をお待ち申し上げております。

今後とも大妻同窓会福島をよろしくお願い致します。

(大竹美登利)

## <ご 寄 附>

笠原礼子様から、今年も切手をいただきました。ありがとうございました。



大妻同窓会福島会報  
編集発行人 武藤みや子  
発行所 大妻同窓会福島  
発行日 平成27年3月31日  
印刷所 有限会社 わかさ印刷  
(会津若松市町北町上荒久田字崖下16-2)